

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN 2013-2014 WEEKLY REPORT

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 白藤 憲雄 ■幹事 / 本多 利郎 ■会報・雑誌・広報委員長 / 安藤 修
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinam-rotary.com

2013-14年度 国際ロータリー会長 ロンD.バートン

第1090回

2014年5月13日(火) 晴 第38回

～みんなに豊かな人生かどうか考える月間(地区)・環境保全週間(地区)～

出席 会員 56名 (出席率算入人数 47名)
出席 38名 出席率 80.85%
前々回補填率 93.48% (4月15日分)
ゲスト 地区環境保全委員会
委員長 高橋 豊彦さん

5月の誕生日

2日 川瀬 悟さん 8日 田子 充浩さん
22日 長尾 浅吉さん

配偶者誕生日

4日 山本 雅子さん 10日 久米 ゆりさん
10日 鈴井 富貴さん 14日 白藤由利子さん
15日 東山 洋子さん

5月の結婚記念日

7日 太田 敦士さん 23日 有川 英敏さん

会長あいさつ

会長 白藤 憲雄さん

皆さま、こんばんは。連休中はいかがお過ごしでしたか。私は一年ぶりにサイパンへ行って来ました。年々思うのですが、日本人観光客が随分と減って韓国と特に中国の方が多くみられます。滞在中は毎日ゴルフで、3日間で私は5ラウンド半、スタッフは6ラウンド半をまわりました。とても若い人にはついていけません。



残り2ヶ月となり、皆さまのおかげでこれまで無事にやってこられました。先日、台北ミレニアムロータリーから創立15周年記念例会のお誘いがありました。最後のお務めとして参加して参ります。ご一緒していただける方の参加をお待ちしております。

幹事報告

幹事 本多 利郎さん

1. 台北ミレニアムロータリーから創立15周年記念例

会の案内が来ています。是非、皆さまに参加していただきたいと思います。締切は5月20日です。

- 名古屋北ロータリーよりフォト俳句出展のお願いがありました。出展希望の方は事務局までご連絡ください。締切は5月23日です。
- 海外出張届けが出ています。鈴木清詞さん、ペルー・ブラジル・アルゼンチン・アメリカへ4月30日から5月13日までです。細井俊男さん、イタリアへ5月26日から6月2日までです。属ゆみ子さん、ドイツ・イタリアへ5月20日から29日までです。

副幹事報告

副幹事 児島 徳和さん

- 出席袋に委員会構成表を入れさせていただきました。今回の構成につきましては、五大奉仕は基本的に数名程度で、役割分担として出席ニコボックス、親睦活動家族委員会、会場運営に重点を置き、あまり負担がないような形で組ませていただいたことをご了解いただきたいと思います。
- 先日お配りした会員名簿に訂正のある方は、本日が締切となっておりますので、まだの方は早急に事務局までご連絡いただきたいと思います。
- 次年度事前クラブ協議会が5月27日(火)に行われます。時間は17時から18時です。日にちと時間をお間違えないようお願いいたします。つきましては、それにあたっての事業計画書が未提出の方は、早急に事務局までお願いします。

ニコボックス

◆ 地区環境保全委員会委員長高橋豊彦さんの卓話楽しみにしています。

川村 繁生さん 大平 明子さん 川瀬 悟さん
加藤 英敏さん 新原 尚さん 野々村憲吾さん
中村 勝さん 安藤 修さん 細井 俊男さん
白藤 憲雄さん 三浦 隆さん 本多 利郎さん
三島多恵子さん 中西 芳子さん 出田真太郎さん
杉山 隆秀さん 佐々木元彦さん 東山 直史さん
吉木 邦男さん 牧野 好弘さん 鈴井 一博さん
佐々木 暢さん 大橋さなえさん 森田敏二三さん
武藤 正行さん 宮崎 良一さん 坂本 晃さん
川辺 清次さん 児島 徳和さん 長尾 浅吉さん
久米 伸治さん 木下 福郎さん 白坂 修二さん

本日合計 39,000円 累計 1,197,000円

委員会担当者話

■環境保全・保健問題委員会

委員長 犬飼りさ枝さん

皆さま、こんばんは。今月は環境保全月間ということで、本日は豊橋からこの地区の環境保全委員会委員長の高橋豊彦さんに卓話をお願いして、皆さまに環境について学んでいただこうと思っています。

高橋さんは、東三河ヤクルト販売株式会社の社長をされていて、その傍ら「蛍の飛び交う人里づくり」という特定非営利活動法人の朝日鞍川育成フォーラムの理事長もされていて、いろいろとご活躍されています。手元の資料をご覧になりながらお話を伺っていききたいと思いますので、よろしくお願ひします。

■地区環境保全委員会 委員長 高橋 豊彦さん

皆さま、こんばんは。只今ご紹介いただきました、豊橋RC所属の高橋と申します。本日は何度も遠方から…と言っていただきましたが、実は豊橋クラブの例会場はここから新幹線に乗って25分、降りて1分の所にありますので、例会場への移動は30分もあればできます。非常に時間的距離の近い所から来ております。



本日は、「企業に期待される生物多様性」について少しお話しさせていただきます。何故、「企業」なのかというと、大きく二つのポイントがあります。

まず一つは、企業というと大抵は複数の人数で運営しています。代表者と従業員というのが基本的な構成です。そこには企業理念というものがあり、人と関わる、人を育てるといった大きな役割が企業にはあると思います。そういった意味で、生物多様性、環境の問題から企業の役割があるということです。更に、企業というと土地などの資産を持っています。大企業で例えると、法律で特定の面積以上の事業用地は緑化面積というのが決められています。緑化だからと何でも植えれば良いというわけではなくてきています。

これら二つの視点から、「企業に期待される生物多様性」というお話をさせていただきます。愛知県は環境に対する取り組みを積極的に行っています。他県とは非常に違う部分があります。2005年に「愛・地球博」というのがありました。自然の叡智をテーマとした画期的な万国博覧会として愛知からスタートしました。その5年後「COP10」が開催され、いろんな議論が交わされました。そのなかで焦点となったのは、第三国で作物を栽培した際の遺伝子保有の権利についてです。

例えば、昨年大流行したインフルエンザの特効薬タミフルの原料は、ウイキョウという植物から抽出したものです。人間の生活の中で恩恵を受けているものというのは、ほとんど自然の中から取ったものなので、それらをもともと保有する原産地・原産国

などが、種を保存することが人間の生活にとって非常に大事なことであり、そういった生態系の多様性や種の多様性、更に遺伝子の多様性について議論がされました。

また今年の11月に、持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）に関する「ESDユネスコ世界会議」というのが愛知県で開催されます。愛知県は環境に関して先進県として内外にPRしたいという背景があるということを感じておいていただきたいと思います

そんななかで、具体的に何を行っているかということ、あいち自然環境保全戦略ということで、愛知県もいろんな生物が生きられるよう県民の皆さまに少しずつ協力をお願いする「愛知生物多様性戦略2020」という指針を掲げました。愛知県の自然環境のホームページにて、100ページくらいありますが詳細な資料をPDFファイルでダウンロードできますので、興味のある方は是非ご覧ください。本日はエッセンスだけお話しします。生物多様性の保全のために何をすべきか、また持続可能な利用のためにきちんと環境を保ちましょうということで、二つのキーワードだけお話ししたいと思います。

まず一つめは「生態系ネットワーク」です。もともとあった自然が開発などによって分断されます。川など水は生物の多様性を促進します。人が森や川沿いに住むようになって都市化が進みます。ほとんどの生物は移動手段が決まっているので、生活圏も決まっています。分断して孤立化が進むので、これを緑地や水辺で繋ぎ生き物の道をつくるのが「生態系ネットワーク」です。

具体的には、「生物多様性ポテンシャルマップ」というのがあります。日本初のもので愛知県としては非常に素晴らしいといわれています。オオタカなど16種類の生物が実際にどのくらい生物分布があるのか調べているものです。この16種類の生物に関しては、このままだと絶滅の危機があるので、どうすればいいのか具体的に示してあります。

何故、そのようなことがわかるのか、イトトンボのポテンシャルマップの場合で説明します。イトトンボ研究の専門家曰く、500メートルくらいの範囲を移動するので、水辺を中心に生息地を見ていくと、イトトンボが全くいない所がでてきます。いる所といない所を繋ぐことができれば、イトトンボが行き来できるので絶滅の危機が緩和されます。例えば、学校や公園、皆さま方の企業の立地がある所に、そこにちょっとした池を作り、イトトンボが来るようにします。このなんとかして繋ぐことができないかということ、県民の皆さまに協力をお願いするという発想です。

イトトンボの例を挙げましたが、自然環境では、トンボにとってよい環境というのは他の生物にとっては悪い環境であります。ひとつの種が決まるとひとつの種が居づらくなるという現象があります。メダカは最近絶滅の危機にあります。メダカは田んぼの周りの水路や池で生息しています。メダカが生息しやすい環境にするならば、川の流れをなくし、少し水を澱ませてきれいなものが生息できないようにしなければ、メダカは増えません。自然というのはそのままにしておくのが自然だと思われがちですが、人間がある程度コントロールしないとうまくい

かない現状になっています。そのようなことも考えながら、何を大事にするべきか、皆さまが協力できることがあるのではないかとということです。

もう一つは「代償ミティゲーション」です。本来あった自然の部分はどうやって保全するのルール決めしようというのですが、検討中です。開発案件として申請が挙げられた時点でプランがほとんど決まっていて変更できないので、少しソフトランディングでやらざるを得ない状況です。開発でどんどん整地をしていくと、自然が損なわれる、分断されてしまう場合があります。

そこで同じ場所だけ開発していくのではなく、分断されている所をなんとかしようとして議論しています。名古屋の場合だと、県庁から名古屋城の周りにはヒメボタルが飛んでいます。そこだけが分断された状態で孤立していると、絶滅した場合にその環境がなくなってしまいます。

それでは具体的にどうすればいいのか、愛知県としてガイドラインを出しています。まずは、企業としていろんな開発事業において生態系への配慮をしてくださいということです。

次に事業所の緑化です。緑化でも在来植生ということに大事にしています。戦前からの植林で増えたスギなどの花粉症で悩んでおられる方も多いと思いますが、もっと遡って、本来植えられていたものを植えるようにしましょうという考え方です。

最後に社員のボランティア活動です。自然というものそのままにしておくが大変なので、人手が必要になります。川などは税金をかけて草刈りなどの清掃をしています。名古屋市の場合は分かりませんが、公園の清掃や木の剪定などを全て税金で賄おうとすると大変なことになるので、少し人手で持ち出しをしてバランスをとるとうまくいくのではないかと話もあります。

そんなことも含めて、本日は「生態系ネットワーク」と「代償ミティゲーション」の二つの話をしました。現在は車社会になったので、表土が本当になりません。雨が降ると、雨水が側溝を流れて下水にいくしか道が無くてすぐに溢れてしまいます。自分の家の周りに土が出ている所を少しずつ増やしていくなどの工夫をすることで、草が生えて生物多様性にも繋がります。自然をいろんな面で考えていくと、絶滅したりすることが少し緩和され、何か自分たちでもできることがあるのではないかと考えるきっかけが持てるのではないのでしょうか。本日はありがとうございました。

■ 5 月度理事会 議事録 ■

報告者 児島 徳和さん

日時 2014年5月13日(火) 17:30～
場所 名古屋マリオットアソシアホテル
17F「パイン」

出席者 白藤、三島、本多、宮崎、坂本、
中西、児島、久米、中村、武藤、
川辺、三浦、細井、安藤

17名中14名参加

◎協議事項

一、台北ミレニアム RC15 周年式典に参加をする。

◎報告事項

一、6/7(土)全国親睦合唱祭の件

<幹事 本多 利郎さん>
親睦活動・家族委員会、会場運営・プログラム委員会、出席・ニコボックス委員会に受付のお手伝いを依頼する。

一、6/17 IDM の件

<親睦活動・家族委員長 細井 俊男さん>
名誉会員の方にもご案内をする。

一、5 月度及び 6 月度プログラムの件

<会場運営・プログラム委員長 三浦 隆さん>
・5/20 外部卓話 「陽子線について」
卓話 18:45～19:30 まで 45 分間とる。
・6月10日 事前クラブ協議会 17:00～
理事会 18:00～

一、次年度地区補助金事業の件

<副幹事 児島 徳和さん>
3 養護施設合同 名古屋ドーム野球ソフト大会について当初の予算より差額が発生する。

◎その他

一、新ロータリーマーク使用の件

<副幹事 児島 徳和さん>
ヘッダー等新しいものに変更する。

※次回のご案内

6月10日(火) 18:00～ 理事会
(17:00～ 次年度 事前クラブ協議会)
名古屋マリオットアソシアホテル
17F「パイン」

第 1092 回例会 (5 月 27 日) のご案内

外部卓話
名南 RC 混声合唱団 指揮者
友森 美文さん